

編集後記

清水 光雄

今年 6 月に郵送されてきた「日本ウェスレー・メソジスト学会便り」で、来年の 8 月にもたれる第 11 回 Oxford Institute of Methodist Theological Studies のテーマは New Creation であると記されていた。これを見て、ウェスレー研究もここまで来たかとの思いを深くした。少なくとも、20 年くらい前迄、このテーマに関する研究論文は皆無で、現在でさえも、このテーマを認めないウェスレー研究者は多くいるであろう。ウェスレー研究も新しい段階に突入している。

「日本とメソジスト教会」を特集テーマとする学会誌第 2 号を会員の方々や一般の方々にお届けできて感謝である。「アメリカとメソジスト教会」の文献は多数あり、例えば 19 世紀北米のホーリネス運動に止まらず、種々の運動とウェスレーとの関係が神学的視点からも多く論じられている。これに対し、われわれの特集テーマに関する文献は少なく、散在し、しかも学的にどうであろうか。その意味で「日本ウェスレー学会」に限定しない「日本ウェスレー・メソジスト学会」の果す役割とその責任は重いであろう。学会誌を通して、この分野に関する研究や議論がますます盛んになればと願っている。何かご意見があれば、是非、編集委員の方まで頂ければ幸いである。

今年の夏は文字どおり酷暑であった。投稿して下さった方々の御苦労は大変であったと思う。酷暑のゆえか、原稿の投函の遅れがあり、小生にもそれらにここで言及する時間と体力がなかった。「巻頭言」の最初と最後の段落で述べられている言葉を小生の思いとし、今回投稿して下さった方々への一言をもって、編集後記とすることを、お許し頂きたい。

岩本助成氏は本学会の物心両面を支えて下さる学会会長。内海健寿氏の専門はイギリス社会思想史、メソジズムと社会。林牧人氏はメソジスト職制論

を、原田彰久氏は中田重治を専門とする研究を行い、かつ、牧会者。馬淵彰氏はケンブリッジ大学大学院歴史学（Ph.D）を1999年に卒業された新進気鋭の研究者。齋藤元子氏は女性の視点からメソジスト研究を志す博士課程の学生である。

学会誌発行に際して、会計の石田聖実氏が全て引き受けて下さった。感謝。